

ロータリーの平和について

2月は、平和と紛争予防・紛争解決月間となっています。このテーマになると、解決の糸口が見えないウクライナ侵攻やガザの紛争に思いを馳せます。ロータリーの目的、第4項には「奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること」とあり、平和の推進はロータリーの使命です。

マッキナリーRI会長は、「友」で、平和の脆弱さを認識し、ロータリーは、世界が平和と友情、愛に満たされる様に支援すべきと主張し、更に、「平和」とは単に戦争や紛争の無い状態のみを指すのではなく、健康、安全な水、食料、衣服、住居、教育の提供と人権や尊厳を尊重することを指すと述べています。

RI会長は「平和」に一番近いのは「愛」だと唱え、広義の意味での平和を導く解決策として愛を唱え、愛により会長テーマである「世界に希望を生み出そう」と提唱されています。

マッキナリー会長は、「愛」について、キング牧師の「我々が愛の力を見つけたとき、世の中を変えることができる」という言葉を引用して、「愛は心を強くし、自由にします。愛は自己の利益や分断を乗り越え、我々を導き、人のあるべき道を示してくれます。私が伝えたい愛は、無私な愛、犠牲的な愛、他者の幸福を求める愛です。これらの愛こそ人類の為の愛ですが、実践するのは簡単ではありません」と述べ、更に「互いに思いやりを持つことで、初めて希望を見出すことができます。勿論、世界に希望と平和を生み出すためにはそれらを自分自身の中で生み出す必要があります」と述べ、方法論として、メンタルヘルスを主張されています。

3月3日の地区大会では、ウクライナ人国際政治学者のA・グレンコ氏の講演が予定されています。彼の著書から講演内容を予想すれば、反プーチンのグレンコ氏は、ウクライナと日本がロシアに対して地政学的に似ていることから、今回の軍事侵攻を教訓として防衛についての「日本の覚悟」を警告されるものと思われます。

戦争や紛争に対して、ロータリーができるのは、RI会長の主張の通り、愛を唱え、平和の思想を広めるしかないと考えますが、独裁者が世界的繋がりを簡単に破壊する現実を見てロータリーの非力を感じます。グレンコ氏の現実的な主張も考慮すべきかと思えます。

しかし、平和を唱えることは、歴史や宗教を見る限り長期的には決して無力ではないと考えます。そして、ロータリーの立場は、日本の現実に似ており、今後、歩むべき道の参考になるのではないかと思います。